

■今月の特選句

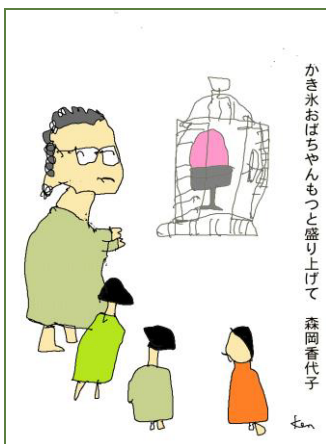
2021年8月



子子の字面の奇妙水たいら

百千草

「子子」を「ぼうふら」と読めるのは年季の入った俳人ぐらいなものだろう。ぼうふらがどんなに動き回っても水面が静かなのも不思議。



かき氷おばちゃんもつと盛り上げて

森岡香代子

子どもの頃の思い出だね。かき氷がだんだん高く盛り上がってくると子ども達は「もつともつ」と囃したて、おばちゃんは、おまけをしてくれる。



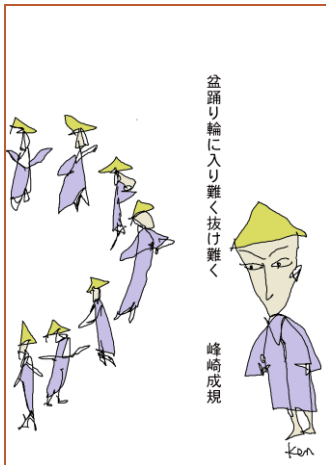
短夜や来し方行く末入り混じり

横山洋子

あれこれ思いをめぐらして短夜を使い果たし、眠れぬ一夜となることは誰にでもあること。短夜がことのほか短く感じられた夜を描いたか。

■今月の特選句

2021年8月



盆踊り輪に入り難く抜け難く

峰崎成規

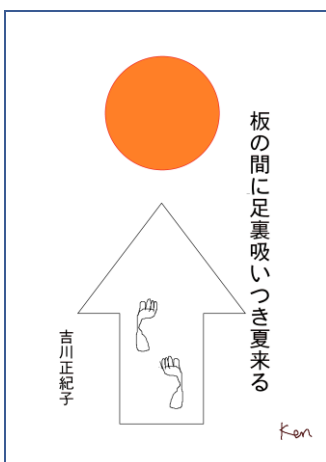
途中から踊りの輪に加わるのは難しいが、一度入った輪から抜けるのはもっと難しい。ゆっくりと動いているにもかかわらず、どちらもコツがいる。



屁理屈のよく出る口から枇杷の種

日根野聖子

枇杷の種を口から掌に受ける時、手品のように見えることもある。屁理屈が得意な人物が今日は枇杷の種を出したという可笑しさ。



板の間に足裏吸いつき夏来る

吉川正紀子

暑いので靴下をやめて素足になった。直に板の間を歩いてみると、足の湿り気が板に吸い付くような感じがする。この感触が夏の実感なのだ。